

研究代表者 所属・職：健康科学部・准教授

氏 名：坂口 大史

研究課題名：ものづくりを通じた多世代交流と複数地域が連動した住民主体のまちづくりに  
関する実践 的研究

#### 研究の概要

2020 年より続いた新型コロナウイルスの感染拡大により、地域における活動は制限され、地域の賑わいが失われつつある。特に、本研究で対象とする半田市亀崎地区や有脇地区でも、少子高齢化や町の衰退の進行などが顕著であり、古くから続く伝統行事も中止されるなど、日常的な住民同士の交流も行えない状況が続いていた。コロナ禍は住民同士の関わりを希薄化させるのと同時に、地域活性化の面で大きな負の影響を及ぼしている。コロナ禍が一定の落ち着きを見せた一方で、コロナ禍で分断された地域コミュニティの結束を取り戻す必要がある。

コロナ禍において急速に普及したオンライン活動も含めたまちづくりにおける新たな試みによる、ポスト コロナを見据えた新しいまちづくり活動の展開に加えて、地域が抱える課題の解決に資する活動を再開する 時期に差し掛かっているといえる。これらを背景として、本研究で対象とする半田市亀崎地区及び有脇地区において課題となっている住民同士の交流の復活、高齢者の活躍の場の創出、地域活性化に資する活動の展開など、新たなまちづくりの展開とその効果の実証を研究の目的とする。

#### 達成状況・成果内容

これまで亀崎地区において開催してきたワークショップやイベントは、一定の成果を収めてきたものの、地域内で簡潔することが多く、他地域への展開や活動の定着は必ずしも果たせていない。また、新型コロナウイルスの蔓延により、従来型の大人数による対面型のイベントを実施することは容易ではなく、新しいまちづくりのスタイルを模索する必要がある。

本研究では、これまで取り組んできた半田市亀崎地区における地域連携まちづくり活動を軸として、オンラインコンテンツを取り入れたワークショップやイベントなどの活動と対面式の活動を組み合わせたハイブリッド形式を有脇地区に展開した。それによって、多世代を対象とした持続的なまちづくりの効果を具体的なデータと共に検証することができた。また、オンラインを活用したまちづくり活動と地域の中で日常的に展開される活動を融合させることで、地域内での交流が促進され地域活性化に資する取り組みが展開された。

さらに、これまで展開してきた亀崎町における活動をモデルとして、有脇地区における新たなまちづくりの仕組みとスキームのモデルを構築できた。これによって、半田市亀崎地区以外の地域においても、各地域のニーズや課題に合わせることが可能となり、地域独自の活動内容にカスタマイズすることで、有脇地区以外の地域への波及効果も期待できる状況となった。